

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
第33回外部評価委員会 議事概要

- 1 開催日時 令和5年6月15日(木) 12:50~14:30
- 2 場所 AP東京八重洲 A+Bルーム(東京都中央区京橋1-10-7)
- 3 出席者
【外部評価委員】
藤村委員、松為委員、安藤委員、内田委員、眞保委員、真下委員

【機構】
輪島理事長、鈴木理事、三富理事、小林総務部長、木原経理部長、
飯田企画部長、近藤納付金部長、小野寺障害者助成部・高齢者助成部長、
村田障害者雇用開発推進部長、山下高齢者雇用推進・研究部長、
須摩求職者支援訓練部長、山谷公共職業訓練部長、
大塚職業リハビリテーション部長、外山研究企画部長、中村職業センター長
- 4 議題
○令和4年度及び第4期中期目標期間における業績評価(高齢・障害者雇用支援業務等)について
○職業リハビリテーション専門部会及び職業能力開発専門部会報告
- 5 概要
事務局から、資料2-1及び3-1に基づき、高齢・障害者雇用支援業務等に係る令和4年度及び第4期中期目標期間における業績評価について説明が行われた。
なお、各委員からの主な意見及びその他の質疑応答の概要は以下のとおり。
また、職業リハビリテーション専門部会及び職業能力開発専門部会報告については、特段の意見はなかった。

(1-1-1 高年齢者等の雇用の安定等を図る事業主等に対する給付金の支給)

令和4年度における業績評価

自己評定Bについては、「妥当」との意見であった。

【評価できる点】

- 給付金制度について、丁寧に説明している点。
- 数値目標を高い水準で達成している点が高く評価できる。また説明会の実施回数だけでなく、説明会に来られない方のためにYouTube等を用いた情報提供を行なっている点も有益である。
- 給付金説明会実施回数の増加と給付金申請1件あたりの平均処理期間の短縮(マニュアルやチェックリストの充実)。
- 制度利用者アンケートで「給付金によって定年引上げや機械設備・雇用管理制度の導入等の取組に変化があった」が91.6%と9割超えとなった点は制度の意義を裏付けるものである。

○数値目標を達成していること。新型コロナウイルス感染症拡大防止に柔軟に対応し、給付金の説明会開催の回数を増やし、説明会の参加を控えた事業主向けに説明動画をホームページ及びYouTubeで配信し、広報活動に力を入れたこと。給付金の支給・不支給の事例を掲載し、支給申請の手引で分かりやすく周知したこと。

【改善すべき点】

○給付金説明会実施回数の増加を可能にしたノウハウ、平均処理期間の短縮を可能にしたノウハウの継承と全国支部への横展開（ノウハウには失敗事例、その対処を含む）。

○高齢者にとって、立ち仕事や重量物の運搬等は体力的に負担である点が課題として挙げられている。給付金によって機械設備の改善などの好事例の広報を一層進めていきたい。

第4期中期目標期間における業績評価

自己評定Bについては、「妥当」との意見であった。

【評価できる点】

○5年にわたり、安定して高い成果を出した点は評価できる。

○コロナ禍に見舞われたにもかかわらず、期間中の数値実績が高い水準で維持されたこと。

○ホームページの充実と時宜に合致したYouTubeで配信に取り組み、申請事務の丁寧な説明に努めて、申請事務の効率化に取り組んだ点、業務担当者の研修による能力開発に取り組んだ点について評価したい。

○いずれの年も数値目標を達成していること。新型コロナウイルス感染症拡大防止に柔軟に対応し、給付金の説明会開催の回数を増やし、説明会の参加を控えた事業主向けに説明動画をホームページ及びYouTubeで配信し、広報活動に力を入れたこと。給付金の申請が集中した年度についても、支給処理が滞留しないよう努めたこと。

【改善すべき点】

○そもそもSやAという評価が可能となる目標設定になっていないことから、Bという評価になるのは仕方がないものとする。しかし担当者の意欲喚起を考えると、今後は目標設定についてより適切になるよう検討すべきであるとする。

○今期間の取組を良好なものと出来た背景の分析、積み上げたノウハウの確実な伝承、これから当該業務を担当する職員向けの研修体制・研修プログラムの充実（ノウハウには失敗事例、その対処を含む）。

その他の主な質疑応答

○オンライン申請に向けて仕様書等を確定したとのことだが、今後の見込、進捗は如何か。
→令和4年度に仕様書等を確定し、令和5年度に開発業者を決定した。令和5年度から6年度にかけて開発を進め、令和7年度4月にリリースする予定。

(1-1-2 高齢者等の雇用に係る相談・援助、意識啓発等)

令和4年度における業績評価

自己評定Sについては、「妥当」との意見であった。

【評価できる点】

- 有用な情報を提供し続けている点。
- 重要度と難易度のどちらも高い内容について、非常に高いレベルで目標を達成している。その際に改善提案の件数だけでなく、実際に見直しが行われた割合も2/3程度と高い水準となっている点が評価できる。
- 制度改善提案件数の目標数値超えと事業主のニーズに合った制度改善提案の増加（提案の質の向上）。
- 70歳までの就業機会の確保というさらなる課題について具体的な制度改善提案に取り組みたい点の評価したい。
- 数値目標を大きく上回って達成していること。コロナ禍にありながら、積極的に制度改善提案を行ったこと。都道府県支部による事前確認に加えて、機構本部において提案内容の事後確認を行い、プランナー等に対し個別に助言を行うなどきめ細かいフィードバックを行い、提案内容の質の向上に努めたこと。事業主のニーズに合わせてオンラインによる相談・助言を実施したこと。

【改善すべき点】

- 質の向上のためには研修や情報共有だけでなく、どのような人をプランナー、アドバイザーとして委嘱するのも考える必要があるかもしれない。どのようなバックグラウンドを持つ担当者の実績が高いのか、例えば年齢層はどうかなどについて検討しておくこと今後のためにも有益だと考える。
- 制度改善提案数を高い水準で維持できたノウハウ、事業主のニーズに応えた提案内容とそれを可能にした体制の構築ノウハウの継承と全国支部への横展開（ノウハウには失敗事例、その対処を含む）。

第4期中期目標期間における業績評価

自己評定Sについては、「妥当」との意見であった。

【評価できる点】

- 5年にわたりS評価を積み上げてきた実績は非常に高く評価できる。次の中期目標期間では、より高い目標が設定されることになると考えるので、効率的な取り組み方法を検討されることに期待したい。
- コロナ禍に見舞われたにもかかわらず、期間中の数値実績が高い水準で維持されたこと。
- 高齢者雇用アドバイザー、65歳超雇用推進プランナーの研修の体系化と機構本部のスーパライズにより着実に目標を達成してきた点の評価したい。

○いずれの年も数値目標を大きく上回って達成していること。コロナ禍にありながら、積極的に制度改善提案を行ったこと。法改正に先駆けて令和2年度下半期より努力義務のための提案を行ったこと。

【改善すべき点】

○今期間の取組を良好なものと出来た背景の分析、積み上げたノウハウの確実な伝承、これから当該業務を担当する新規の高年齢者雇用アドバイザー向けの研修体制・研修プログラムの充実（ノウハウには失敗事例、その対処を含む）。

その他の主な質疑応答

○好事例の収集・提供について、当初は苦勞したが取組を通じて、高齢者の活躍に繋がったという事例が事業主の参考になると考える。そのような内容の事例を取り上げているか。

→新しい事例集の作成に当たっては、導入時の苦勞、例えば上層部を説得する際にどのような資料を使ったか等、どのような苦勞があったかという点についても収集していきたい。なお、定期刊行誌エルダーにおいては、企業における現場の課題に対する取組やその取組の中で試行錯誤した内容等を掲載している。

(1-3-1 障害者雇用納付金の徴収並びに障害者雇用調整金及び報奨金等の支給)

令和4年度における業績評価

自己評定Bについては、「妥当」との意見であった。

【評価できる点】

○納付金の収納率は継続して高い。

○これ以上は改善の余地がないレベルで目標を達成している。

○障害者雇用納付金にかかる事業主説明会開催回数の目標値達成ならびに申請時の利便性を高める工夫（マニュアルや動画の充実）、納付金収納率の高さ。

○YouTube 配信の内容充実は評価できる。やや単調な部分もあるので、毎年の改訂の際に時流にのった工夫をお願いしたい。

○数値目標を達成していること。新型コロナウイルス感染症拡大防止に柔軟に対応し、説明会開催の回数を増やし、説明会の参加を控えた事業主向けに説明動画をYouTubeで配信し、周知活動に力を入れたこと。電子申告申請及び電子納付の利用を広く周知し、電子申告申請及び電子納付ともに利用件数は前年度を上回ったこと。

【改善すべき点】

○事業主説明会実施回数増加を可能にしたノウハウ、納付金収納率の高さを可能にしたノウハウの継承と全国支部への横展開（ノウハウには失敗事例、その対処を含む）。

○オンラインでの事業主調査のメリットや課題を明らかにして、事業主ニーズに応えるとともに、適正な調査と業務の効率化につなげていただきたい。

第4期中期目標期間における業績評価

自己評定Bについては、「妥当」との意見であった。

【評価できる点】

○YouTubeを利用するなど、社会変化に適切に対応している点が評価できる。

○コロナ禍に見舞われたにもかかわらず、期間中の数値実績が高い水準で維持されたこと。

○制度改正や新型コロナ感染災禍などに迅速に対応された点を評価したい。

○いずれの年も数値目標を達成していること。新型コロナウイルス感染症拡大防止に柔軟に対応し、説明会開催の回数を増やし、説明会の参加を控えた事業主向けに説明動画をYouTubeで配信し、周知活動に力を入れたこと。電子申告申請及び電子納付の利用を広く周知したこと。

【改善すべき点】

○A評価以上を達成することが実質的に不可能な目標設定となっている点が残念である。

○今期間の取り組みを良好なものとして出来た背景の分析、積み上げたノウハウの確実な伝承、これから当該業務を担当する職員向けの研修体制・研修プログラムの充実（ノウハウには失敗事例、その対処を含む）。

その他の主な質疑応答

○オンラインでの調査の実施に当たり、課題はあったか。

→調査では資料の確認が必要であるが、オンライン調査ではその資料を画面にかざす方法で行っており、これに難しさがあった。

(1-3-2 障害者雇用納付金に基づく助成金の支給等)

令和4年度における業績評価

自己評定Aについては、「妥当」との意見であった。

【評価できる点】

○数値目標としての平均処理期間と事業主説明会の開催回数のどちらについても過去最高の結果を出していることは高く評価できる。

○障害者雇用助成金の周知にかかる事業主説明会開催回数の増加ならびに説明動画やフロー図導入といった事業主の利便性向上のための対応の充実と助成金申請1件あたりの平均処理期間短縮。

○目標の大幅達成とともに、わかりやすい様式の提示やフォーム作成ツールなど不断の工夫を続けられている点を評価したい。

○数値目標を達成していること。認定した事業主に対して、支給請求時の提出書類を解説した資料を送付し、審査時において事業主へ照会する回数を削減したほか、新たに

支給対象費用の算定を容易にする様式を作成・配付したこと。

【改善すべき点】

- 適正な支給業務のために点検や確認を行なった上で不正が判明した件数はゼロとなっているが、点検の精度が十分に高いことを確認するためにあえて問題のある事例を混ぜることで摘発できるかなどの確認を行うなどの取組を検討してはどうか。
- 説明会開催回数の増加を可能にしたノウハウ、平均処理期間の短縮を可能にしたノウハウの継承と全国支部への横展開（ノウハウには失敗事例、その対処を含む）。

第4期中期目標期間における業績評価

自己評定Bについては、「概ね妥当」との意見であった。

また、以下のような意見があった。

- 令和4年度の指標の達成度は122.4%と140.6%であったことから、総合的に「A」が妥当とみなされる。

【評価できる点】

- 令和4年度はA評価が適切だと考えるが、前年までの大臣評価も含めて考えると期間全体としてはBが適切である。
- コロナ禍に見舞われたにもかかわらず、期間中の数値実績が高い水準で維持されたこと。
- 制度改正や新型コロナ感染災禍などに迅速に対応された点を評価したい。
- いずれの年も数値目標を達成していること。効率的な助成金支給業務を実施したこと。

【改善すべき点】

- 今期間の取組を良好なものとして出来た背景の分析、積み上げたノウハウの確実な伝承、これから当該業務を担当する職員向けの研修体制・研修プログラムの充実（ノウハウには失敗事例、その対処を含む）。

その他の主な質疑応答

- オンライン申請は高年齢者助成金同様、令和7年度4月のリリースか。
→同様である。

(1-3-3 障害者雇用に関する各種講習、啓発及び障害者技能競技大会（アビリンピック）等)

令和4年度における業績評価

自己評定Bについては、「妥当」との意見であった。

【評価できる点】

- コロナ禍を乗り越えた後の平時への移行時期に大会を円滑かつ効果的に実施できたこと。

○障害者職業生活相談員資格認定講習について、運用面で苦勞も多いハイブリッド形式を導入し受講生の確保に努めた点を評価したい。

○数値目標を達成していること。オンライン形式と集合形式を合わせたハイブリッド形式での講習を試行的に実施したこと。TOKYOMXにおいて特別番組が放映されたこと。

【改善すべき点】

○働く広場公開座談会の参加者が幾分少なく感じる。参加者が増えるように告知等を頑張っていたきたい。

○アビリンピックについて、LIVE 配信を見ることが興味をひくように、例えば同時に専門家による解説などがあると視聴者が増えるかもしれないと感じた。

○コロナ禍という非常時を経ての大会実施から得られた教訓やノウハウの蓄積、大会実施の好事例の全国展開（ノウハウには失敗事例、その対処を含む）。

○障害者職業生活相談員資格認定講習について、コロナ禍前の水準を回復していない点を鑑み、対面実施とオンライン実施のメリットと課題をさらに確認し、受講者のニーズに合致した開講形式などをさらに検討していただきたい。

第4期中期目標期間における業績評価

自己評定Bについては、「妥当」との意見であった。

【評価できる点】

○期間中にコロナ禍に直面した中で、アビリンピックが限定的な形で行われた時期もあったが、安全性に配慮しつつ適切な形で対応された点を高く評価している。

○コロナ禍等不測の事態下でも大会を円滑かつ効果的に実施出来たこと。

○新型コロナウイルス感染災禍の中でもアビリンピックを継続するとともに動画配信による新たな関心者層を掘り起こしたことを評価したい。さらなる広がり期待したい。

○いずれの年も数値目標を達成していること。新型コロナウイルス感染症拡大防止に柔軟に対応し、障害者への理解が深まった旨の割合が非常に高かったこと。

【改善すべき点】

○コロナ禍等不測の事態下でも大会を円滑かつ効果的に実施出来る体制の構築、必要なノウハウの蓄積と実施担当要員への研修体制・研修プログラムの充実（ノウハウには失敗事例、その対処を含む）。

その他の主な質疑応答

○ 特になし

以上